

キム ション
金時鐘 文化講演会

「詩について思うこと、考えること」

2016

9月25日(日)

14:30 ~ 16:00

今から46年前に発表された金時鐘の詩「新潟」は、一昨年韓国語に翻訳され、波紋を広げました。

3000行を越えるこの長篇叙事詩は、新潟を出港地とした北朝鮮への「帰国事業」をひとつの背景に、韓国の済州島四・三事件(※)、浮島丸事件、朝鮮戦争、吹田事件など日韓の近代史の中で起きたさまざまな出来事へまなざしを向けながら、「みみず」となった「ぼく」が既存の壁を乗り越え、新しい祖国への道を求めてさまよう姿が、凝縮された詩の言葉に刻まれています。その日本語は今も新鮮に読み手の心を打ち、歴史の時間に誘い込む力に満ちています。

金時鐘は昨年出版した回想記『朝鮮と日本に生きる』(岩波新書)で四・三事件の記憶を語り、詩「新潟」に隠された記憶の深層も、明らかになってきました。四・三事件で日本に逃れ、南北朝鮮の統一を願う活動に身を挺しながら、日本語での文学活動が厳しく批判され組織を離れた在日の詩人を支え続けた「詩」とは何だったのかを、詩の表題となった土地、新潟で語っていただきます。



※ 済州島四・三事件

1948年4月3日に在朝鮮アメリカ陸軍司令部軍政庁支配下にある南朝鮮(現在の大韓民国)の済州島で起こった島民の蜂起にともない、南朝鮮国防警備隊、韓国軍、韓国警察、朝鮮半島本土の右翼青年団などが1954年9月21日までの期間に引き起こした島民虐殺事件。

金時鐘(キムシジョン)

詩人。1929年釜山生まれ。済州島で育つ。48年の済州島四・三事件を経て来日。53年詩誌『デンダレ』創刊。日本語による詩作を中心に、批評、講演などの活動を続ける。詩集に『地平線』(1955/デンダレ発行所)、『日本風土記』(1957/国文社)、長篇詩集『新潟』(1970/構造社)、『光州詩片』(1983/福武書店)、『原野の詩』(1991/立風書房)、『化石の夏』(1998/海風社)、『失くした季節』(2010/藤原書店 高見順賞受賞)など。2015年『朝鮮と日本に生きる』(岩波書店)で大佛次郎賞を受賞。



金時鐘(キムシジョン)

目に映る
通りを
道と
決めてはならない。
誰知らず
踏まれてできた
筋を
道と
呼ぶべきではない。
海にかかる
橋を
想像しよう。

地底をつらぬく
坑道を
考えよう。
意志と意思が
かみ合い
天体をもつなぐ
ロケットの
マッハの空間に
道を
上げよう。

長篇詩集「新潟」より

会場：新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス9階講堂
(新潟市中央区上大川前通7)

定員：150人(先着順、入場券を送付)／聴講無料
協力：砂丘館

申し込み：往復はがき、またはEメールで郵便番号、
住所、氏名、年齢、電話番号、
「金時鐘講演会」と明記し、下記の住所・
アドレスまでお送りください

〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7番町1169
新潟国際情報大学中央キャンパス一宛

E-mail: chuo@nuis.ac.jp

申し込み締切：9月12日(月) 必着

問い合わせ：新潟国際情報大学中央キャンパス TEL 025-227-7111